

日本発ドイツ便り:種と皮の問題

ちょっと思い浮かべてみてください。夏の暑い日、子供が庭でスイカをかじっています。スイカにはもちろん種があります。種を出そうとした子供にお母さんはなんて言ったでしょう？

- ①「種は出しなさい。飲み込むとお腹から芽がでてくるよ。」
- ②「種は出しちゃダメです。ちゃんと噛んで飲み込みなさい」

ドイツのお母さんの答えは②です。初めてこの光景を目撃(!)したときは「ふえ～」と驚いたものです。

そんなこんなで小さなことですが、ドイツの種と皮問題についてちょっと書いてみようと思います。

◆種の問題◆

種は何でも食べる！というわけではなく、桃とかサクランボとか噛んでも歯の立たないものは食べないようです。ぶどうとかスイカとか金柑とかオレンジの種なんかが食べてしまうグループのようです。(まあもちろん個人の好みもあるとおもいますが・・・)

ところでまったく関係ないですが、柿は今ではドイツでも売られていますが、もともとドイツにはなかった果物のようで、市場とかでは「KAKI」とそのまま日本語名のまま売られています。

◇皮の問題◇

日本に比べて皮ごと食べるフルーツの種類が多いです。ぶどうは皮も種もまとめて食べてしまうし、りんごの皮をむいて食べる。という発想はおそらくないと思います。梨もそのまま、イチジクもそのまま。桃だって柿だって杏だってそのままかじります。(慣れてくるとあんまり違和感ないですよ。)もちろんバナナとかオレンジとかスイカとかメロンとか、皮の厚いものは取り除きます。



駅にある果物屋さんにあった Obstdusche(オプスト・ドゥーシェ)Obst=果物、Dusche=シャワーなので、買った果物はかじる前にここで洗ってね。というものです。ちゃんとキッチンペーパーまで準備してあるのがなかなか親切。☺

日本の「おにぎり」に相当するのがドイツの Butterbrot(ブッターブロート:パンにバターを塗ったもの)にりんごを1個もしくはバナナを1本。これが一番シンプルなドイツの「お弁当」です。

ドイツのりんごは日本のりんごの2/3くらいの大きさで、1キロ200-300円くらいで売っています。

結構色々種類があって、ある日「FUJI」という種類を見つけたのですが、みんな異常に平べったく??? 原産国は「中国」でした…。



色とりどりの果物。キウイの皮を食べるのか?はよくわかりません。(でもこの形に切ってあるってことは食べるのかな?)あ、ドイツでは「ほおずき」も果物の一つです。食べてもあんまり味はないですけどね…。

ところ変われば…。種と皮のホントの小ネタでした。